

普及だより

令和4年2月 Vol.

112

くにみ

発行：伊万里農林事務所
西松浦農業改良普及センター
TEL(0955)23-5128 FAX(0955)23-5138
nishimatsuurafukyuu@pref.saga.lg.jp

NEWS TOPICS



楽しい集落営農をめざす！
すべては子供たちのために！

集落営農リーダー研修会

集落営農支援担当者会では、11月5日にJA伊万里本所で令和3年度集落営農リーダー研修会を開催しました。講師に、全国初の集落営農法人を立ち上げられた島根県津和野町の「農事組合法人おくがの村」の代表理事である糸賀盛人氏を迎え、これまでの取り組みを紹介していただきました。

糸賀氏は、39歳でおくがの村の代表理事となった時から現在に至るまでの30年あまり、次の世代へ村を残すために様々な活動を行われてきました。その一つとして、中山間地の管理で最も大変な仕事である畦畔の草刈りを省力化するために、あぜ道の幅を50cmから2mまで拡張し、アーム式モアを付けたトラクタで管理が可能な環境の整備をされました。また、自ら「新・農業人フェア」に出向き、毎年他の地域からの移住者を募り、定着に向けた村の楽しみづくりを行われています。その他、栽培した菜の花を自給燃料とする活動や、くず米と焼酎の物々交換など、地域の特徴ある活動にも取り組まれています。

会場からは、法人化に係る運転資金の質問や、若い人を巻き込む方法について質問があり、糸賀氏も方言を交えた力強い語り口で答える等、活発な意見交換がされました。

講演の最後には、糸賀氏の講演の締めくくりとなっている「ふるさと」を合唱し和やかな雰囲気です研修会を終えました。

地域農業を牽引する農業者の皆様

佐賀農業賞受賞

先進的農業経営者の部

最優秀賞 農林水産大臣賞

石橋 茂 (有田町下山谷)

平成5年に就農し、国内で1割程度しか生産されていない無葉飼料でのプロイラー飼育を行われています。また、自らグループホームや就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所の運営も行われており、障害者に対して安心・安全な住まい、職業訓練の機会を提供するとともに、主軸であるプロイラー事業の従事者の確保を行うなど、農福連携の一つの理想的な形で経営を発展させてきました。青年農業士や佐賀県農協青年部協議会委員長、JA伊万里理事など地域の農業者代表としても長年活躍されており、これからのさらなる発展が期待されます。



若い農業経営者の部

優秀賞

浦川 健治 (伊万里市二里町)

浦川さんは、素牛生産から肥育牛出荷までを自己の経営内で行う肉用牛一貫経営を行われており、素牛価格の変動に左右されない経営を展開されてきました。繁殖牛部門ではICT機器の導入による省力化や、採卵・受精卵移植技術への挑戦、肥育牛部門では飼養管理見直しによる枝肉成績の大幅な向上を達成されており、さらに、自己の良質堆肥を利用した自給飼料生産を行う等、地域の畜産農家の模範的存在となっています。また、農協青年部や青年農業士として、次代を担う若手の育成にも積極的に取り組まれており、これからのさらなる活躍が期待されます。



地域農業活性化の部

優秀賞

JA伊万里いちご部会

JA伊万里いちご部会は県内では小さい部会ではありますが、部会員の結束や環境制御装置、高設栽培などの新技術導入を積極的に進めています。その結果、現在では部会の10a当り平均反収と販売金額は県内トップクラスの産地となっており、昨年度は10a当たり販売金額が1,000万円を超える農家も現れてきています。

また、今年度産からはすべての品種を「いちごさん」に統一され、部会結成当時から目標である4億円達成に向けて現地研修会の常時開催や「若手研究会」など積極的に活動され他の部会の見本となっています。



農業女子交流会で 新たなネットワークづくり

令和3年9月30日に、伊万里・有田地区の女性農業者を対象とした交流会を開催しました。今回は農業女子ネットワーク企画会議で開催内容を話し合い、参加しやすい交流会を目指して「スワッグづくり体験」と「グループトーク」を実施し、17名が参加しました。

スワッグづくり体験では、伊万里の若手女性農業者でもある(株)百姓屋の谷口未佳氏を講師として招き、和



気あいあいとした雰囲気に参加者同士が交流を深めました。グループトークでは2班に分かれ、お互いに近況や現在取り組んでいること、農業との向き合い方等、今までの経験を踏まえながら前向きな意見交換がなされていました。

また、これをきっかけにイチゴ生産者の参加者同士で新たな交流があり、再度交流の場を設けるため11月4日には「いちご女子交流会」を開催しました。

回を重ねるごとに、新たな出会いや交流が生まれ、女性農業者同士のネットワークが広がっています。引き続き、女性農業者同士の交流の機会が増えるよう支援していきま

4Hクラブでは新たな活動を 展開しています

伊万里地区4Hクラブは、現在15名の会員で活動を行っています。今年度から新たに、経営研修会の開催と「ふぞろいのストロークプロジェクト」との連携を行っています。

経営の研修会は、1〜2か月に1回、普及センターの職員を講師として、「損益計算書と貸借対照表」「青色申告」「仕分け」等をテーマに実施してきました。引き続き

今年度からは県連4Hクラブにも加入し、新たな交流の輪が広が



き経営の基礎的なことをテーマにしながら、実施を予定しています。また、ストロークプロジェクトは小麦を材料としたストロークの製作を行うもので、プラスチックストロークとは違い、環境にやさしいSDGsの取組として(一社)広域連携事業推進機構と連携した活動を行っています。

今年度からは県連4Hクラブにも加入し、新たな交流の輪が広がっています。若手農家同士で意見交換を行いながら、地域の仲間と楽しく勉強や活動ができる組織です。ぜひ参加してみませんか? 興味のある方は、伊万里農林事務所西松浦農業改良普及センターまでご連絡ください。

就農希望者へ アスパラ経営の実際を



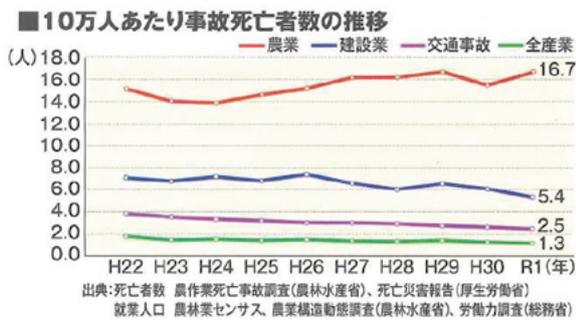
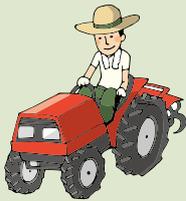
今年度は毎月の就農相談により、アスパラの就農希望者が6名にのびりました。そこで具体的に農地候補や就農計画のある方を対象に、ハウス建設時の新規定植状況を知らせるため「アスパラ現地就農研修会」を開催し、青年農業者の中島克さんの新規ハウスを見学しました。経験をともに工夫され、業者との綿密な打ち合わせが行われていました。また、同じく青年農業者の池田祥二さんよりアスパラの就農体験を聞きました。自分の頑張りで適期作業ができれば成果が出る事などを話されました。



就農希望者の具体的就農計画にむけたサポートとなりました。今後関係機関と連携して、就農や部会活動につなげていきます。

安全確認と予防対策で 農作業中の事故を防ごう！

農林水産省の調査によると、農作業中の死亡事故は全国で年間約300件程度発生しています。佐賀県内でも、令和3年に農作業中の事故が10件発生しており、そのうち死亡事故が4件発生しました。農作業中の死亡事故は一般交通事故の約7倍、建設業の約3倍にも及びます（グラフ）。佐賀県内での農作業中の事故は農業機械による転倒や巻きこみ事故、不慮の転倒、不慮の墜落によるものが多いため、普段慣れている作業でも危険が伴うことを再認識し、農作業の徹底に努めてください。



私は伊万里市大川町でナシを1.4ha栽培しています。私で5代目ということでも歴史のある梨農家です。

佐賀県農業大学校を卒業後佐賀県果樹試験場に勤務し、3年間仕事と果樹についての勉強をしてきました。今年の4月に退職後就農しました。また、新たにモモの栽培に取り組むので、先輩のモモ農家の方々にわからないことは相談し、アドバイスを貰いながらモモの栽培に励んでいます。

伊万里4Hクラブにも加入しており、1人1課題を持って生産に取り組み事や農業経営の勉強会などに積極的に参加しています。

あと数年で父親からの経営継承となるので、信念と自信をもって農業経営ができる良い経営者になれるよう日々精進していきます！



丸尾 大介 氏(大川)

